

登山用ロープのSG基準

SG Standard for Rope for Mountain Climbing

1. 基準の目的

この基準は、登山用ロープの安全性品質及び消費者が誤った使用をしないための必要事項を定め、一般消費者の生命又は身体に対する被害の発生を防止することを目的とする。

2. 適用範囲

この基準は、登山用ロープ（身体確保用に限る。以下「ロープ」という。）について適用する。

3. 安全性品質

ロープの安全性品質は、次のとおりとする。

項目	基準	基準確認方法
1. 外観	1. すれ、傷その他の欠点がなく仕上げが良好であること。	1. 目視等により確認すること。
2. 衝撃力及び切断強さ	2. 落下衝撃試験を行ったとき、初回にはロープの衝撃力が 4. 表示及び取扱説明書の 1. (8) の表示のあるものにあつては、7,845.3N 以下、その他のものにあつては 11,768.0N 以下であり、2 回目にはロープが切断しないこと。	2. 落下衝撃試験は落下衝撃試験装置を用いて、有効長さ 2.8m のロープの一端を固定し、所定の支点の上方高さ 2.5m から、4. 表示及び取扱説明書の 1. (8) の表示のあるものにあつては、ロープの先端につるした質量 55kg のおもりを、その他のものにあつては、ロープの先端につるした質量 80kg のおもりを自然落下させ、オンログラフによりロープの衝撃力を確認することにより行うこと。この場合において、支点には、日本工業規格 G4303 (1991 年) ステンレス鋼棒に定める SUS304 であつて曲率半径 5mm±0.1mm のものを用いるものとする。
3. せん断衝撃力	3. せん断衝撃試験を 3 回行ったとき、ロープのせん断衝撃力が 4. 表示及び取扱説明書の 1. (8) の表示のあるものにあつては、いずれも	3. せん断衝撃試験は、1 本のロープから採取した有効長さ有効長さ 2.8m のロープ 3 点の試料について、2. 衝撃力及び切断強さの基準確認方法により確認すること。ただし、支点は、次に掲げる要件に適合すること。

	<p>980.7N 以上、その他のもの にあつてはいずれも 1,471.0N 以上であること。</p>	<p>① 支点の材質は、日本工業規格 G4303（1991年）ステンレス鋼棒に定める SUS304 であること。 ② 支点の形状は、90度の角度で面取りを施さないものであること。 ③ 支点の表面粗さが日本工業規格 B0601（1994年）表面粗さの表4に定める 3.2μm のものであること。</p>
--	---	---

4 表示及び取扱説明書

ロープの表示及び取扱説明書は、次のとおりとする。

項目	基準	基準確認方法
<p>1. 表示</p>	<p>1. ロープの末端部の表面に容易に消えない方法で次の事項を表示すること。 なお、(3)～(6)は、取扱上の注意事項と共に取扱説明書に表示してあるものにあつては表示を省略することができる。 (1) 申請者の名称又はその略号及び日本国内の輸入・販売事業者の名称又はその略号 (2) 製造年月若しくは輸入年月又はその略号 (3) 品名 (4) 呼び径 (0.5mm 単位) (5) 衝撃力 (100N (10kgf) 単位) (6) せん断衝撃力 (50N (5kgf) 単位) (7) 岩角等の鋭角状又はこれに類する物体に衝撃をもって衝突したときには、切断することがある旨</p>	<p>1. 目視及び触感により確認すること。</p>

<p>2. 取扱説明書</p>	<p>(8) 二つ折り又は2本で使用するものにあつては1/2の記号</p> <p>2. ロープには、次に示す趣旨の取扱上の注意事項を明示した取扱説明書のほか、ロープの略歴記入用紙を添付すること。</p> <p>なお、一般消費者が容易に理解できるよう図で明示するのが望ましい。</p> <p>(1) 取扱説明書を必ず読み、読んだ後保管すること。</p> <p>(2) 岩の割れ目に食い込ませたり、鋭い岩角等にかけないこと。</p> <p>(3) 靴やアイゼンで踏んだり、岩の上を引きずらないこと。</p> <p>(4) キンクしたまま使わないこと。</p> <p>(5) 制動確保を行うこと。</p> <p>(6) 特に険しい岩場等では二重ロープを使用すること。</p> <p>(7) 巻くときはよじれないように巻き、持ち歩くときは必ず袋の中に入れること。</p> <p>(8) 火気に近づけないこと。</p> <p>(9) 使用後は、風通しのよい所で陰干しにして十分乾燥してから冷暗所に置</p>	<p>2. 専門用語等が使用されておらず、一般消費者が容易に理解できるものであることを確認すること。</p>
-----------------	--	--

	<p>くこと。</p> <p>(10) 使用后、損傷の有無を確認すること。なお、長時間使用したロープ、又は一度でも大きな衝撃を受けたロープは、外観に損傷がなくても使用しないこと。</p> <p>(11) 使用履歴について整備し、廃棄時期の参考にすること。</p> <p>(12) SG マーク賠償制度の対象となるのは登山（山岳救助活動を含む。）に使用される場合に限り、レンジャー部隊の訓練、風水害の救助活動など特殊な使い方をしている場合は、対象外となること。</p> <p>(13) 製造業者名、販売業者名若しくは輸入業者名及びその住所。</p>	
--	---	--